



# 今回のおすすめメニュー



NO IMAGE

NO IMAGE

「木箱ラベルの時代 昭和のくだもの」

著者:林 健男

出版社:IBC パブリッシング

所蔵館:中央館

請求記号:675.1ハ

「木箱ラベルの時代 昭和のやさしい」

著者:林 健男

出版社:IBC パブリッシング

所蔵館:中央館

請求記号:675.1ハ



物資が今ほど豊かになかった戦前の青果市場では、野菜や果物などの食材はザルや竹かごに入れられ、新聞紙で包むなど、とてもシンプルなものでした。その後、頑丈で搬送中の食材の保護に適した木箱が登場し、一気に流通の主役になりました。しかしながら軽量で折り畳めるダンボールの登場により、木箱の時代は約30年ほどで幕を閉じたのです。木箱の中身を明記するために貼られるようになったラベルは「スケッチ屋さん」と呼ばれた画家を志すアルバイトの若者たちによる、文字も含めてすべて手描きデザインでの制作でした。美人画や地方の景勝地なども色鮮やかに一緒に描いて産地がわかりやすくする工夫や遊び心を取り入れたラベルは、食材を魅力的に見せるPRツールとしての付加価値もありました。人の手で描かれている為か、ラベルを見ていると懐かしさと温かみを感じるような気がします。高級なワインやそうめんが今でも箱に入っているように、沖縄産の野菜や果物も木箱に詰められラベルを貼られていたらと考えるとワクワクするのは私だけでしょうか。残念ながら昭和遺産となってしまった木箱ラベルたち。まるで古いポスターを見ているようなノスタルジックな世界を楽しんでみてください。

